

秋田の風

日銀秋田支店長コラム

7月3日、いよいよ新しいお札（日本銀行券）が発行になる。当日は朝から、金融機関が日本銀行に開設している当座預金口座から現金を引き出す形で、新しいお札が世の中に出ていく。金融機関では、日本銀行から引き出した新しいお札を店舗・ATM別に分けて、各営業エリアの隅々まで配送する。県民の皆さまの手元には、こうした現金流通ネットワークを通じて、数日から数週間以内に届き始めることになる。

近年、人口減少により地域経済が縮小する一方、交通網の整備などにより経済圏は拡大している。そうした環境変化の中、金融機関もコストの削減や経営資源の集約によるサービスの質

金融機関の信頼感

向上などの狙いから、店舗網の見直しを全国的に進めてきた。他方で、ATMについては、複数の金融機関による相互利用やコンビニエンスストアなどへの設置が進んでおり、国民の現金アクセスの利便性は大きく低下してはいない。日本の金融機関が支える現金流通ネットワークは諸外国と比べても充実しており、新しいお札の発行に向け

セルフレジを設置する事業者など多くの関係者が相当な労力をかけて準備を進めてきた。発行当初は対応未了の金銭機器も一部に残るだろうが、大きな障なく新しいお札を使用できる環境は整いそうである。関係者にはあらためて感謝をお伝えしたい。

なお、新しいお札の発行後も、これまでのお札は使える。「従

択肢になるだろう。金融機関の窓口の職員は、投資についても専門知識を学んでいることが多く、有価証券の購入を勧める際には、併せてそのリスクを説明するよう訓練されている。

新紙幣発行の支えにも

ても、こうしたネットワークを信頼して準備を進めることができた。

金融機関以外にも、券売機や

「来のお札が使えなくなる」といった誤った情報や詐欺には注意してほしい。

て、期待できるリターンの程度と併せて、どのような性質のリスクがあるか、またそのリスクは自分の許容範囲内かを理解しておくことである。

ただ、大切な自己資金の一部を投資に振り向ける際には、自分が何を信頼できるか、あらためて考えることも大切かと思う。

新しいお札も、国民から最も信頼される決済の手段として、その機能を長く果たしていくことを期待したい。

（片桐大地・日本銀行秋田支店長）

〈随時掲載〉



詐欺といえは、最近、県内で投資に関する詐欺被害の話が頻りに聞かれます。交流サイト（SNS）で著名人をかたる相手の投資話を信じてしまった、投資に必要な手数料と信じてインターネットから振り込んでしまったなど、連日のように紙面に掲載さ

この点、これから投資を始めようという場合や、ネットに不慣れな場合には、いきなりネット情報に頼るのではなく、一度金融機関の店舗を訪ね、対面でも相談してみるのも有力な選